

新職員紹介 入職 8月1日 C. O

8月1日に入職しました、C. Oです。

新潟県生まれ、宮城県育ちです。埼玉県に住んで8年目になります。

埼玉は憧れの東京の隣、美味しいものが沢山の、とても気に入っています。

特にイチゴが美味しいので、夢工房のイチゴの収穫が今から楽しみです。

前職は相談支援事業所で働いていました。利用者さんと一緒に作業をするのは久しぶりです。

意外(?)にあがり症で毎日緊張して出勤しています。

特技はランニングで、今はその面影が微塵もありますが、遠い昔に実業団選手として走っていました。今はお腹と背中の中の肉が気になりだすと、短期集中で走りこみをしますが、なかなか効果が出ません。おすすめのスポーツがあればどうぞ教えて下さい。

趣味は無駄に手の込んだ料理(美味しいとは限らない)を作る事、美味しいものを食べる(マイブームは羊羹)です。

夢工房で皆さんと一緒に笑ったり、悩んだり、考えたり出来たら良いなと思っています。

どうぞ宜しくお願いします。

実習生の感想 日本社会事業大学 Y. H (8/1~8/10 8日間)

充実した日々をありがとうございました！

第2の人生を福祉の仕事をしたいと学び始めたのが5年前になります。福祉の仕事は幅広く難しく悪戦苦闘の日々です。今まで私が関わってきた学校教育と福祉をつなぎたいという思いで今回、精神保健福祉士の資格取得を目指して夢工房翔裕園様で実習させていただきました。実習指導者の方には実践に即したあるべき福祉の姿を教えて戴き感謝の気持ちでいっぱいです。また、施設長様を中心に、職員の皆様方で利用者様を就労に導くためのきめ細かいプログラムのもと、ひとり一人の利用者様に合わせた支援がなされていることに気づかされ、大きな学びを得ることができました。

私がこのように感じたのは、利用者様たちとの作業を共にしながらの会話の中で、利用者の声として夢工房のスタッフさんへの信頼の言葉を聴いたこと、利用者様と職員、スタッフの関わりから醸し出す雰囲気にも温かさを感じたからです。利用者のAさんは実習最後の日、休憩時間に私のところにきて「Hさん、利用者の目線を忘れない精神保健福祉士になってください。」と言ってくれたのです。Aさんのこの言葉は、「個の尊厳と個のニーズ」を大切に福祉の原点だと実感しました。

大勢の利用者様との会話から私に聴こえた声を宝物として、今後のスクールソーシャルワークの仕事に活かしていける確信ができました。夢工房の皆様方、短い間でしたが、温かく接してくださってありがとうございました。

コラム「子宮と卵巣の全摘手術を終えて・・・」

病気で長期の休みから復帰したメンバーが、スタッフ宛に書いた手紙をご紹介します。

四ヶ月に及ぶ、つらいホルモン療法に耐え、6月29日に入院をいたしまして、7月1日に、卵巣と子宮を摘出する手術を乗り越え、自宅療養を経て、ようやく翔裕園にも復帰することができました。
このたびは、皆様にご心配、並びにご迷惑をおかけいたしまして、本当に申し訳ありませんでした。

入院中は、担当の先生ともめてつらい思いもしてきましたが、現在は和解して、おかげさまで、心も体も元気に過ごすことができるようになりました。
ここまでこれたのは、精神障害者の会の皆様や、翔裕園の皆様方、そして大切なパートナーのお陰だと思っておりますので、今後は、皆様に恩返しできるように、精進してまいりたいと思います。

つらい生理痛(救急車を呼んでしまう程です!)、そして、子宮筋腫(成人用のオムツと生理用のオムツを3枚重ねていても、漏れ出してしまう程です!)に悩まされてきて、25年!!神経症と同じくらい、つらかったです。

手術にいたるまで、本当に悩みました。
強迫性障害、不潔恐怖、におい恐怖、パニック障害、胃腸神経症、嘔吐恐怖、吐き気恐怖、外食恐怖等、さまざまな苦しみを持ちながら、手術や、入院生活を、送ることができるのか、本当に不安でした。
しかし大切なパートナーと歩んだ、2年に及ぶ、壮絶なりハビリ・・・、強迫行為ができない状況に自らを追い込むために、パートナーが見張り役となり、におい恐怖に耐えるために、また、においや人ごみの中で、食事が普通に取れるようになるために、毎週毎週、イオンモールの中を、根気よく、歩きました。
冬の間も頑張って歩き続けたことで、インフルエンザやマイコプラズマ球菌にかかり、大変つらい思いもしました。

それから、体質を根本から変えるために、根気よく高麗人参を飲みつづけたおかげで、まず、胃腸の調子が良くなり、歩き続けたお蔭もあり、体力がつき、お腹がすくようになり、悩んでいた頭痛、肩こり、ものすごい疲労感、また、服用していた抗うつ剤の副作用で、10日に一度しか出なかった便通も改善されて、毎日をプラス思考で元気に過ごすことができるようになりました。

ここまで改善できたことを、皆様やパートナーに、心から感謝をして、今後も精進して、これからは他人のお役に立てる人として、一層の努力をしてまいります。
そして、まだ残っている電車恐怖、それに伴うパニック発作を克服するために、引き続き、コツコツと根気よく努力していきたいと思います。

神経症を克服するのに、近道はありません。
苦しみながら、不安を持ちながら、前進して、自ら成長していくしか方法はないと、私は、思います。

文章：メンバーのYさん